

6 - 1 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動 (1985年1月～1985年6月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (January, 1985 - June, 1985)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所

北陸微小地震観測所

京都大学理学部 阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake
Observatory, Disaster Prevention Research Institute
Abuyama Seismological Observatory, Faculty of Science, Kyoto University

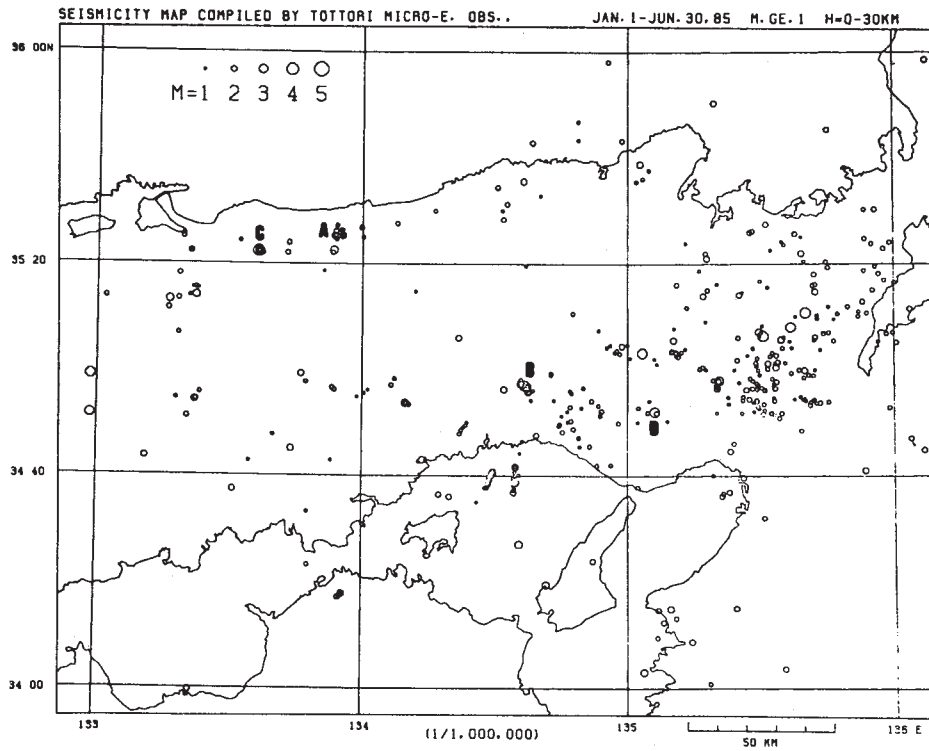
第1図に鳥取微小地震観測所の結果を示す。この期間は、図中にA～Dで示した場所を除けば全般に静穏であった。Aは1983年10月31日鳥取県中部の地震(M6.2)¹⁾の余震、Bは1984年5月30日山崎断層の地震(M5.6)²⁾の余震である。Cは6月26日に始まった大山中腹の群発地震であるが、これに関しては本号の別稿に述べてある。

第2図に阿武山地震観測所の結果を示す。この地域も全般的に静穏であった。図中のDは第1図のDと同じものであるが、6月5日に始まった群発地震でこれまでは空白であった。最大の地震は次の半年期に属し第2図にはプロットされていないが、7月8日のM3.8で明石で有感であった。活動は7月下旬まで続いた。なおこの場所は、山崎断層の延長上にあると思われる。

第3図に北陸微小地震観測所の結果を示す。前2地域と同じく全般に静穏であった。図中のEは5月20日に始まり約2週間続いた赤兎山の群発地震で、1980年及び1982年の2回の活動³⁾、⁴⁾とほぼ同じ場所に発生した。最大の地震は5月20日のM4.2であった。

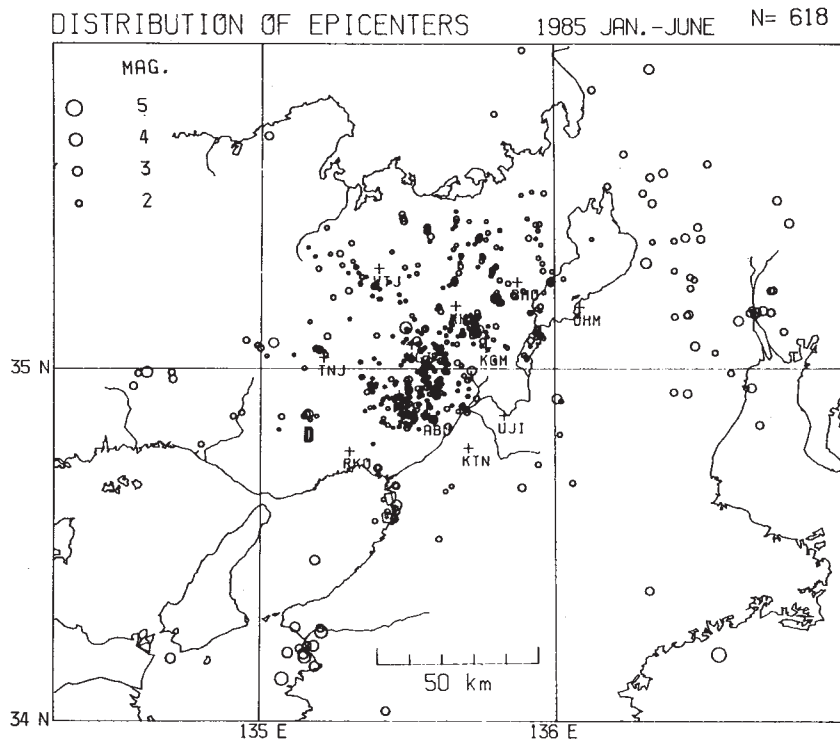
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所鳥取微小地震観測所・微小地震研究部門・鳥取大学地学教室：1983年10月31日鳥取県中部の地震(M6.2)について、連絡会報, **31** (1984), 390 - 398.
- 2) 山崎断層研究グループ：山崎断層の地震(1984年5月30日, M5.6)について、連絡会報, **33** (1985), 355 - 382.
- 3) 京都大学防災研究所北陸微小地震観測所：赤兎山(福井-石川県境)に発生した群発地震活動、連絡会報, **25** (1981), 240 - 242.
- 4) 同前：赤兎山(福井-石川県境)に発生した二度目の群発地震活動、連絡会報, **30** (1983), 320 - 322.



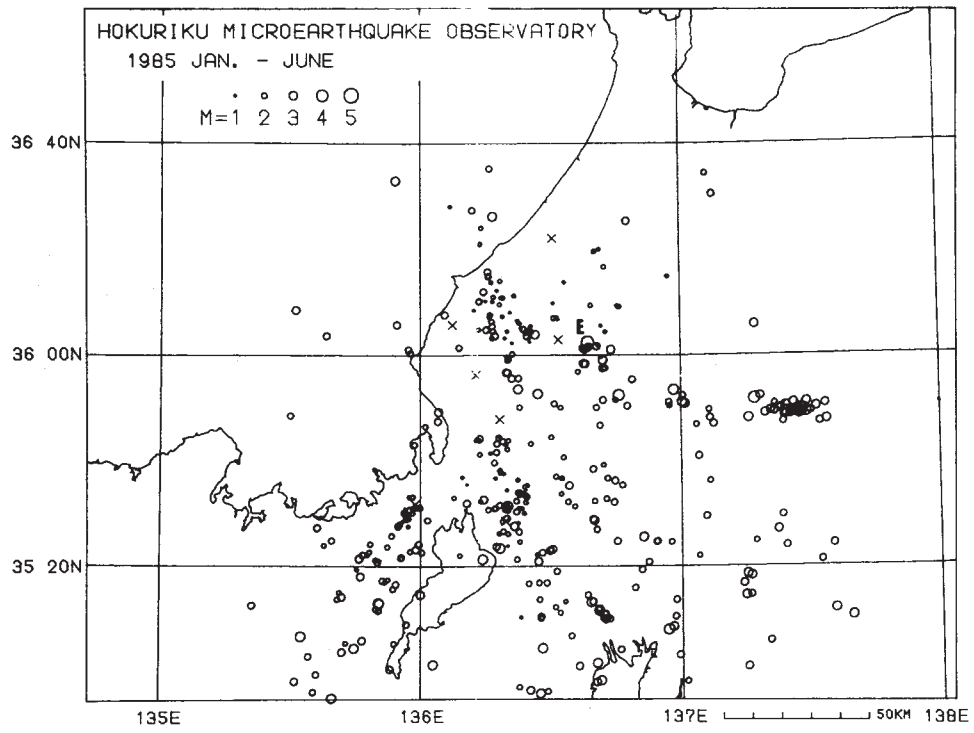
第 1 図 鳥取微小地震観測所による震央分布図 (1985 年 1 月～1985 年 6 月)

Fig. 1 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (January, 1985 - June, 1985).



第 2 図 阿武山地震観測所による震央分布図 (1985 年 1 月～1985 年 6 月)

Fig. 2 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory (January, 1985 - June, 1985).



第3図 北陸微小地震観測所による震央分布図 (1985年1月～1985年6月)

Fig. 3 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (January, 1985 - June, 1985).